



風邪をひきやすい季節になってきましたね。

咳がとまらない……。高熱が続く……。

それって本当にただの風邪??もしかしたら「肺炎」かも!?

● 「肺炎」とは?

肺炎とは、肺に炎症が起きる病気です。2007年の調査では、がん、心臓病、脳卒中に続いて、日本人の死亡原因の第4位であることが分かりました。肺炎の原因には、薬等の化学物質、アレルギー反応なども知られていますが、最も多いのは細菌やウイルスなどの微生物感染による場合です。

今回は感染による肺炎についてお話しします。

● なぜ肺炎になるの?

通常、呼吸によって肺に微生物などが入ってしまっても、人間の体に備わっている免疫機能によって、ほとんどの場合は軽い炎症で終わります。しかし、病気やストレスのために免疫力が低下した時に細菌やウイルスに感染すると、炎症が重症化し肺炎が起こりやすくなります。特に、子供や高齢者、慢性疾患や呼吸器疾患のある方などは肺炎になりやすく、治りにくい傾向があります。

● 肺炎になると……

高熱(38℃以上)、激しい咳・痰、胸が痛い・苦しいなどの症状が、風邪とは違って1週間以上続きます。これは、微生物を体の外へ出すための防御反応によるモノです。肺炎の多くは、適切な治療を行うことで完治しますが、治療が遅れると重症化し、命に関わる場合があります。我が国においても、肺炎によって1年間に11万人の方が亡くなっています(2007年)。

● どういった治療をするの?

治療には、主に以下の表に記載する様な薬を使用します。使用する薬剤は、大きく分けて感染症の悪化を防ぐための抗菌薬や抗ウイルス薬と、発熱・咳などの症状を軽減する薬に分けられます。

薬の種類	薬の名前
抗菌薬	ジェニナック [®] 、クラリス [®] 、ユナシン [®] 、ミノマイシン [®] 、クラビット [®] 、セフゾン [®] 、フロモックス [®]
抗ウイルス薬	タミフル [®] 、イナビル [®]
咳止め	アスベリン [®] 、アストミン [®]
解熱	ロキソニン [®] 、カロナール [®]
去痰	ムコダイン [®] 、ビスルボン [®]
気管支拡張	テオドール [®] 、メプテン [®]

・ 抗菌薬、抗ウイルス薬

肺炎の原因となる細菌やウイルスを取り除き、感染の悪化を防ぐために使います。

感染した微生物によって効きやすい薬が異なるので、患者様に応じて最適と思われる薬を選択し、完全に細菌やウイルスを取り除くことを目的に使用します。症状が治まったからといって勝手に止めると、抗菌薬が効きにくい菌だけが再び増殖し、治りにくくなる場合があります。処方された薬は指示された期間を守ってきちんと飲みきりましょう。

・ 症状をやわらげる薬

咳をおさえる薬、熱を下げる薬、痰を出しやすくする薬、気管を広げて息苦しさを和らげる薬など、症状に応じて使用場合があります。これは、咳や発熱などによって体力が奪われ、免疫力が低下するのを防ぐのに役立ちます。

・ 体力・抵抗力を高めるためにも、保温して安静にします。そして、水分と栄養もしっかりととるようにしましょう。

● 予防できるの?

- ・ 肺炎の多くは、風邪やインフルエンザにかかった後に起こります。うがいや手洗い、マスクなど風邪やインフルエンザの予防をしっかり行いましょう。
- ・ 日頃から規則正しい生活を送り、過度のストレスを避け、十分な休養と栄養バランスのとれた食事を心がけて免疫力の低下を予防しましょう。
- ・ 肺炎の原因となりやすい肺炎球菌に対するワクチンが利用できます。高齢者や慢性疾患の患者さんはワクチンについて医師に相談してみましょう。
- ・ 早期発見・早期治療のため、「肺炎かな……」と思ったら、早めに病院に行きましょう。



最近ふえている「マイコプラズマ肺炎」って……?

「肺炎マイコプラズマ」という細菌に感染することにより起こります。小児や若い人の肺炎の原因としては、比較的多いものの1つです。周期的に流行することが知られており、平成23年から患者数が増えています。最近では、これまで治療に用いられてきたマクロライド系の抗菌薬が効きにくい細菌によるマイコプラズマ肺炎が増えてきています。

<参考>

- ・ アステラス製薬HP
- ・ 治療薬 UP-T0-DATE 2012 メディカルレビュー社
- ・ 厚生労働省HP マイコプラズマ肺炎に関するQ&A H23年12月作成、H24年10月改訂